

ALWAYS SMILE
CARE STAFF
となりの介護士さん



社会福祉法人 苗場福祉会 特別養護老人ホーム さくら館(千葉県船橋市)の皆さん

旧さくら館を10年前に設立し、平成30年(2018)年3月1日、現在の場所に増床移転しました。それまでの経験を糧にして、地域に根付き、ご利用されているお客さま・ご家族さま・地域の方々が気兼ねなく入ってゆっくり過ごしていただけるよう配慮。職員一人ひとりが「思いやりと優しさ」の心をもち、ご利用者(お客さま)

の「笑顔と安心」を目標に、ご利用者(お客さま)の視点に立った介護サービスを提供し、地域の皆さまに信頼される施設づくりを目指しています。また同時に、大勢の職員が楽しくやりがいを持って業務が行える環境と若いスタッフが長く勤められる職場づくりも推進しています。

主役はお客さま。そのためにも 職員のモチベーションを高めるユニフォームを導入



施設の移転増床を機に ユニフォームも心機一転!

定員100名のユニット型の特別養護老人ホーム、さくら館のコンセプトは「和」。お客さまが安らいでお過ごしになれるようにとの思いをカタチにした施設・設備のもとで、お一人おひとりに寄り添ったケアを実践。話し言葉やお声かけには思いやりの気持ちを込めて、親しい中にも礼儀をもって接するなど、きめ細やかな介護風景が施設内のおちこちで見受けられます。エレベーターもフロアによって春夏秋冬のカラーを展開し、四季折々の花をイメージした内装は建築雑誌にも取り上げられるほどの、お洒落な和モダンで統一されています。1階在宅部門では、デイ

サービスを「さくら」、リビングは古民家風で「桃・菜の花」の春の花をイメージ。2階は夏の花「紫陽花・向日葵・蓮華・朝顔」、3階は秋の花「秋桜・山茶花・金木犀・萩」、4階は冬の花「椿・水仙・福寿草・梅」と、上品な雰囲気漂います。平成30年(2018)年3月の移転増床を受けて、上質な空間に溶け込む落ち着いたダークトーンのユニフォームを採用し、ブラウン、ネイビー、ボルドーの3色ワンセットが職員に配られました。それに伴い、特別養護老人ホームだけでなく関連するデイサービスもグループホームも同じユニフォームに統一することになりました。

おしゃれで落ち着いたカラー、 ずば抜けた清潔機能をそなえた TioTio®ユニフォームとの出会い



「福祉用具を探しに行ったとき、たまたまこのユニフォームを見て「いいな」と感じました。花柄やカラフルな色ではなく、高齢者の方にも自然に受け入れてもらえるやさしい雰囲気が気に入ったんです」と満面の笑みで話されるのは、さくら館施設長の松野さんです。「それによく見ると細かいピンドットで上品な印象。しかも機能はハイグレード。衿の白いラインもすっきり映えて好印象ですし……」。最終的には施設長と副施設長がiföryのカatalogを見て、汗のニオイが外に出ないというTioTio®の清潔機能が大きな決め手となったそうです。

相談係長の志村さんは、「以前のユニフォームは派手なポロシャツで、しかも着心地が良くありませんでした。それに比べ、このポロシャツは色合いが落ち着いた感じで、汗をかいてもすぐに乾いてくれるので着心地がいいですね」と満足げです。もうお一人の男性スタッフ、樋口係長も「前ユニフォームは蛍光色だったのでまぶしくて(笑)。でも今は、お客さまからは「目が痛くなくなったよ」と言われます」。5割が男性職員という職場環境から、同TioTio®シリーズの重ね着風白衿タイプのかわいいデザインよりもシンプルなシャツデザインを導入されたのだとか。



お客さまの安心感はもちろん “職員ファースト!”の想いで 楽しく働きやすい施設づくりを

「ユニフォームは働くモチベーションを上げる要素のひとつ。お客さまやご家族の反応、今後の求人も意識しながらも、きちんと感のあるおしゃれな見た目のユニフォームを選びました。なんと言っても、職員が一番ですから!と、新施設の起ち上げに1年間たずさわってきた松野施設長が熱っぽく話されます。「さくら館はプライバシーを重視したユニットケアなのでなるべく医療施設のような雰囲気は出したくない、とはいっても清潔感は必須要素。そうした現場ニーズに応えるためにも、ユニフォーム選びは新しい発想のもとで行われました。

12年以上続く、さくら館の自慢は職員の定着率の高さ。7、8年と長年働いている若手が多く、それに続く職員も育ってきている明るく風通しの良い職場なんですよ」。いくらハード面が新しくなっても、それを活かすのは職員の気持ち次第です。職員が日々快適に楽しく働けてモチベーションが上がることで、お客さまに対する介護ケアのクオリティも高まることは間違いありません。iföryのユニフォームはその一端を担っていると自負しています。

